

合併前の常北町、桂村、七会村が 発行した広報紙を探しています

町では、広報紙（合併前の分を含む）の電子化作業を進めており、できるだけ鮮明な画像で残せるよう、保存状態の良い広報紙（原本）を探しています。

合併前の町村で発行された

広報紙のうち次のものが不足しているため、個人的に広報紙を保管されている方で、町に寄贈または貸与いただける方は総務課までご連絡ください。

◆◆広報紙◆◆

常北町（広報じょうほく）

創刊号（昭和31年5月発行）
316号（昭和63年12月発行）、351号（平成3年8月発行）、497号（平成15年11月発行）

桂村（広報かつら）

11号（昭和37年2月発行）、16号（昭和37年8月発行）、20号（昭和38年2月発行）、21号（昭和38年3月発行）、23号（昭和38年9月発行）
昭和52年3月の期間に発

行、166号（昭和59年1

月発行）、173号（昭和59年8月発行）、180号（昭和60年3月発行）

七会村（広報ななかい）

5号（昭和27年12月発行）、8号（昭和28年6月発行）

◆◆お知らせ版◆◆

常北町（広報じょうほく）お知らせ版

創刊号（241号）（発行年月不明）平成12年3月発行

◆◆議会だより◆◆

常北町

3号（昭和50年12月発行）、101号（平成12年発行）、103号（平成13年発行）、105号（平成13年発行）

問合せ 総務課

秘書・広報・広聴グループ
☎029-288-3111
（内線211、214）

俳句

草に寝て田植祭の男たち 飯田 勇一
梅落とす竹しなやかにしなやかに いそべきよ
胸張って両手を上げて夏の朝 飯村 昭子
秋明菊括り一人の通り道 鯉淵寿美恵
蓮の葉のぎっしり青し雨上がり 仲田まらゑ

文芸しるさと

短歌

隣家を訪へば真白き花木花びら舞ひて粉雪と紛ふ 所 美恵子
花苗の小ささをひと株づつ植うる幼子のごと愛しみながら 渡辺千紗子
ペンギンとアシカのショーは芸ごとに拍手喝采場内が湧く 秋山 愛子
鶯の初音は天地にひびきたり 青葉の風にすがしき朝 山形 式妙
真夏日の着付教室華やきて汗して挑み吾も七十路 大森 久子
おぼろなる月に浮びてすずらんのみまぼろしのごと花は香れる 青柳 京子

緑陰のその先にあり母の墓 森 静江

紅薔薇やラベルにクインエリザベス 寺門 孝子
ガラス器の真つ赤に光りさくらんぼ 袴塚よし子
十四の金魚男の誕生日 竹内 幸子
神主の衣擦れの音夏座敷 今瀬多代美
白紫陽花夕暮れ道の明るかり 一杉 常子
山椒の匂へる中に実を摘めり 瀬谷 博子

川柳

特大鉢並ぶ蓮すの花の寺 岩下 金司
朝顔の一輪増しの暑さかな 田口 勝元
老顔も二十歳心で八十寿すぎ 青木新三郎
検診の時だけやめるコップ酒 富田 多蔵
めだか君大したもんだ宇宙にて 飯村 孝一

台風にて自然の厳しき見る想ひカリンは根こそぎ倒されにけり 杉山みちこ
いっせいに出穂に入りにし水田に夫と二人で出穂水入れる 鶴田 すが
超百歳迎え今なお被災した皆の身案じトヨさん眩し 菌部 光子
心がけ終の住み家を叶え得て余生静かに健康頼む 富田 欽子
炎天下のいのちの限り鳴く蟬の儂なき一生を思いつつ聞く 枝 不美
内緒ばなしのあるがに小庭にスツと降りし「鶉鴒」一羽バツと去りゆく 片見 和枝
「ベチユニア」のピンクの花の蜜を吸う黒揚羽蝶じつと見つむる 川上千代子



夏来れば離れ住む息子等ひぐらしの鳴く裏山を恋しいと言う 島 愛子
放映は全勝力士の対決にて掌に汗握り釘づけとなる 多田志保子
レントゲンに影がうつらずホッとする左手のしびれ少し残れり 坪井きよ子
古き縁者新しき縁者こもごもに逢わせてくる盆会の嬉し 萩谷登喜子
白熱のたたかい済んでなでしこは表彰台に銀メダルかざす 富田佐智子